

# ICTと姉妹都市を活用した グローバル人財の育成



追手門学院大学 Aチーム

中田 真誠、平川 咲弥、加島 朱音

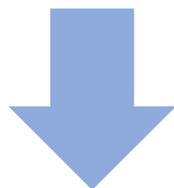
副首都とは？

世界中の人が集まる都市



→大阪府・市はグローバル人財を育成する必要がある

グローバル人財って  
何だろう？



(人財の「財」を用いる理由)  
人材育成にとって人は宝である  
メッセージを伝えたいため当て字を使用

世界中の人と臆することなく話せ  
柔軟性や対応力がある人財

# 今までのグローバル人材のイメージ

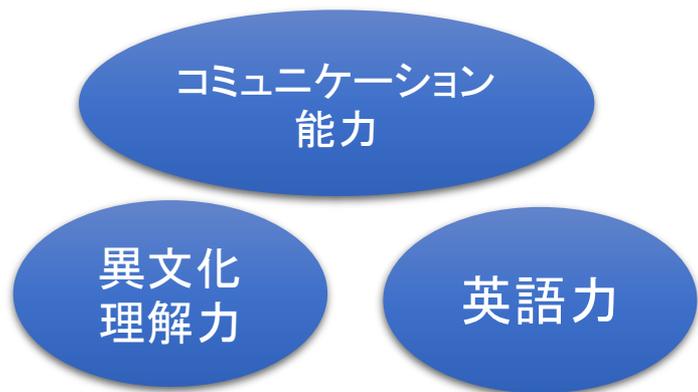
- 日本国内だけではなく、海外でも通用する人
- 英語が使える人
- コミュニケーション能力が高い人



**なんとなくのイメージでは  
グローバル人材を  
育成することはできない！**

# グローバル人材に必要な力

今まで



これから



**グローバル人材は英語が話せればOK!  
というわけではない！**

# これからのグローバル人財育成方法

- ・ **自己主体性** . . . 「自分が」という行動ができること
- ・ **問題解決能力** . . . トライ&エラーを繰り返しながら解決に向けて実行すること
- ・ **情報収集能力** . . . 自分が欲しい情報を適切な方法で収集すること



**失敗を恐れて完璧なものを目指すより、  
失敗を恐れずチャレンジしながら学び成長できるか！**

# 大阪府下の 小中高生を対象



大阪府の小中高生の数は  
874,944人(府民の1割弱)

# ICT教育の整備



全生徒に  
タブレット機器1台  
と電子黒板を確保

出所：大阪府箕面市立萱野小学校HP

# 大阪府内の状況

## 豊中市



令和2年度中に  
全小中学生を対象に  
タブレットを配布  
計32,400台  
1,620,513千円

## 箕面市



令和3年4月までに  
全小中学生を対象に  
タブレット配布  
計8,245台  
1,043,260千円  
上記のうち、758,820千円（全体の約73%）は**国の補助**



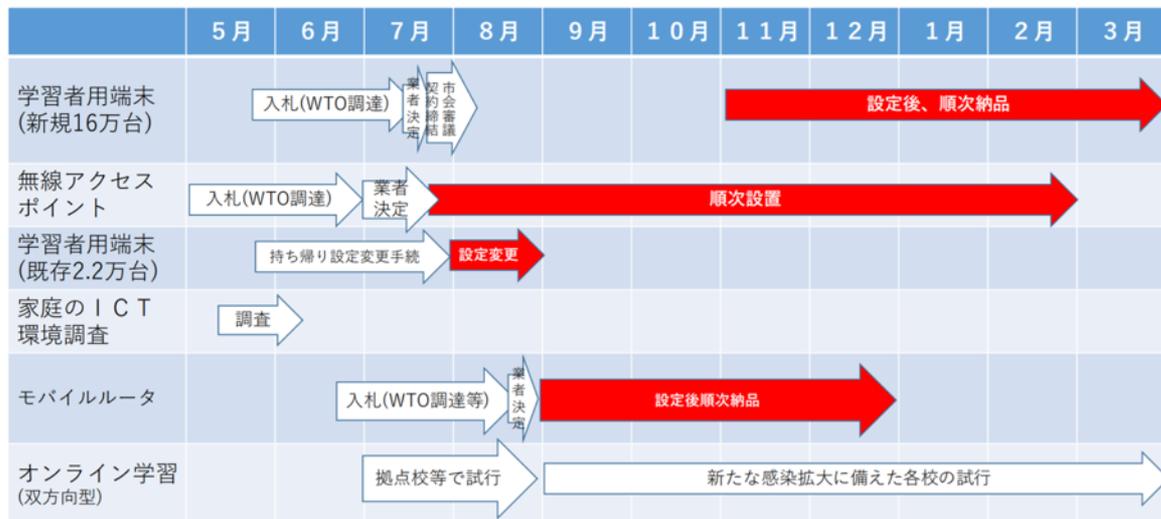
令和2年11月から順次、全小中校に  
一人一台の端末機器整備完了予定！

## ICT教育

Information and  
Communication  
Technology



### 学習者用端末整備・オンライン学習スケジュールについて



大阪市では一人一台の  
端末機器の整備を  
スケジュール化  
→ICT教育を進めている

# 現場の先生への インタビュー結果



インタビュー内容	中学教員	高校教員
現在ICTを活用した授業はしていますか？	デジタル教科書 ・電子黒板に教科書の内容を 掲示できる ・単元に関連する内容を画面上で 紹介できる。	・電子黒板が設置されており、教員が 授業内容を掲示できる ・生徒用のタブレットがないので、 教員と生徒の意見交換ができない
どういった授業がしたいですか？ (授業への要望)	・実際に英語を使う（話す）時間を 多くとりたい	・楽しく積極的に生徒が参加できる授業 ・基本が身につく授業
インターネットを使った授業で ハードルになりそうなことは ありますか？	・先生のコンピュータースキル ・一人一台のタブレットはコストがかかる ・セキュリティの確保	・先生側はパソコンを使って授業できる が、生徒が使える個人用のタブレット がない
英語教育をするにあたって行政から 欲しいサポートはありますか？	・インターネットを通して外国と繋がる 環境づくりのサポート	・個人用のタブレット

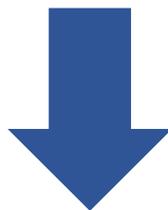
# インタビューから分かったこと



現在でも電子黒板の活用などICT化が  
少しずつ進んでいる



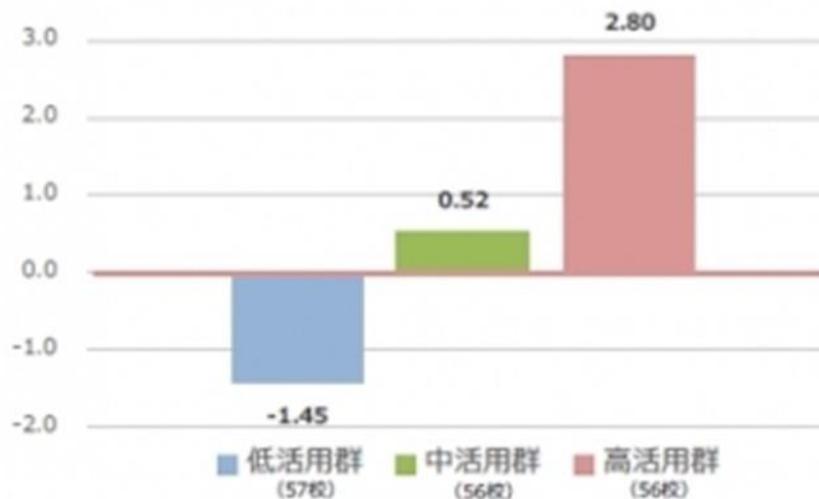
生徒の個人用タブレットがないため、  
先生と生徒との意見交換ができない。



日本人に足りないのは **「英語を話す」** こと！

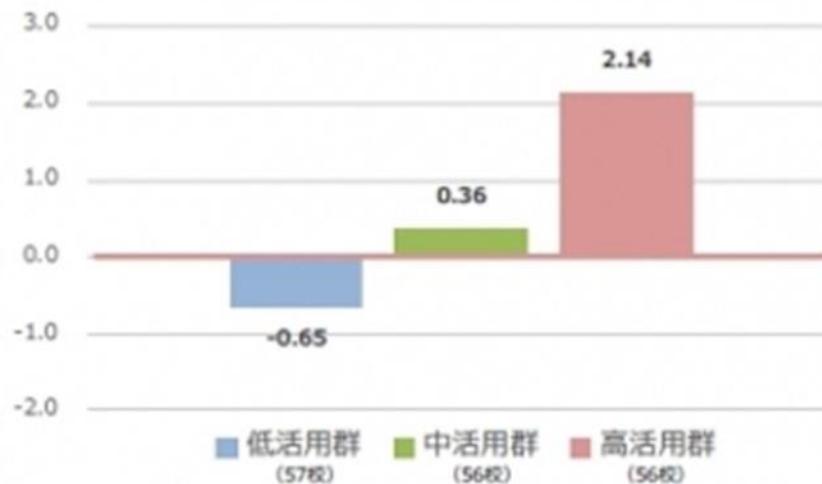
# ICT教育の効果

図1：「WEBドリル」完了数別の偏差値の変化



p.<0.00 (一元配置分散分析による有意差の検定)

図2：「学習動画」再生数別の偏差値の変化



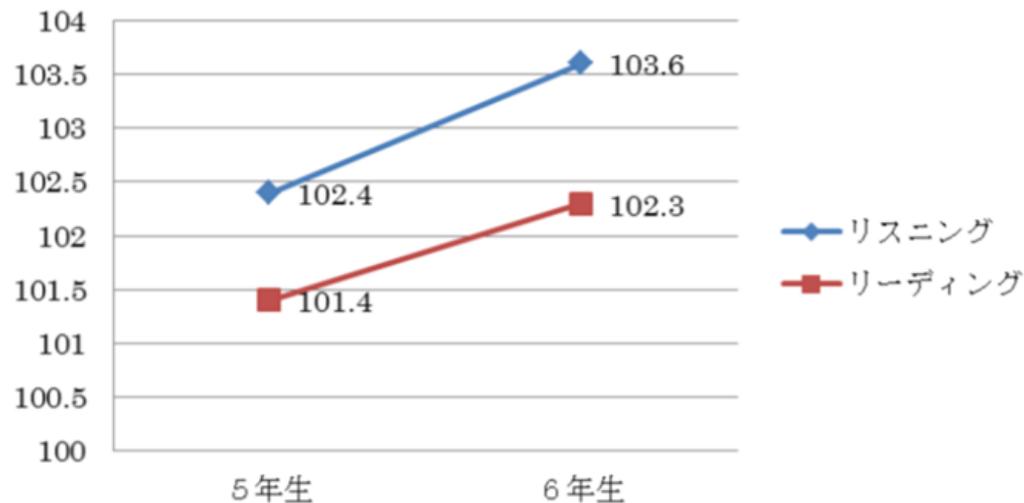
p.<0.00 (一元配置分散分析による有意差の検定)

出所：「ICT学習は本当に成績向上に貢献する？  
全国の4割以上の高校が導入する『Classi』の学習記録データを分析」

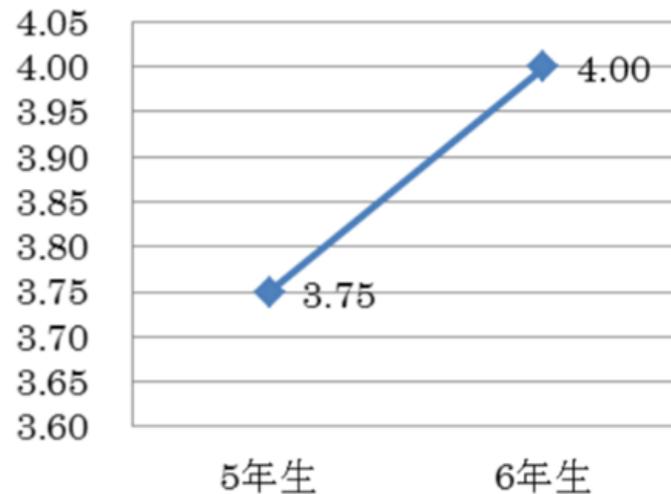
<https://ampmedia.jp/2018/07/06/ict-learning-research/> (2021年1月28日閲覧)

# TOEFL primaryの結果

## リスニング・リーディング平均



## スピーキング平均

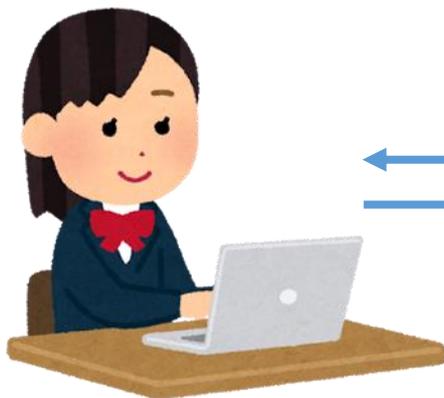


出所：高橋美由紀・大野直子・松田孝（2018）

「ICT を活用した小学校英語教育—スカイプを使用した事例研究を基に—」  
愛知教育大学研究報告人文・社会科学編 67巻1号 21-31頁

# 授業の具体例

先行事例：小金井市立前原小学校



# 授業の内容

実施回数：年11回

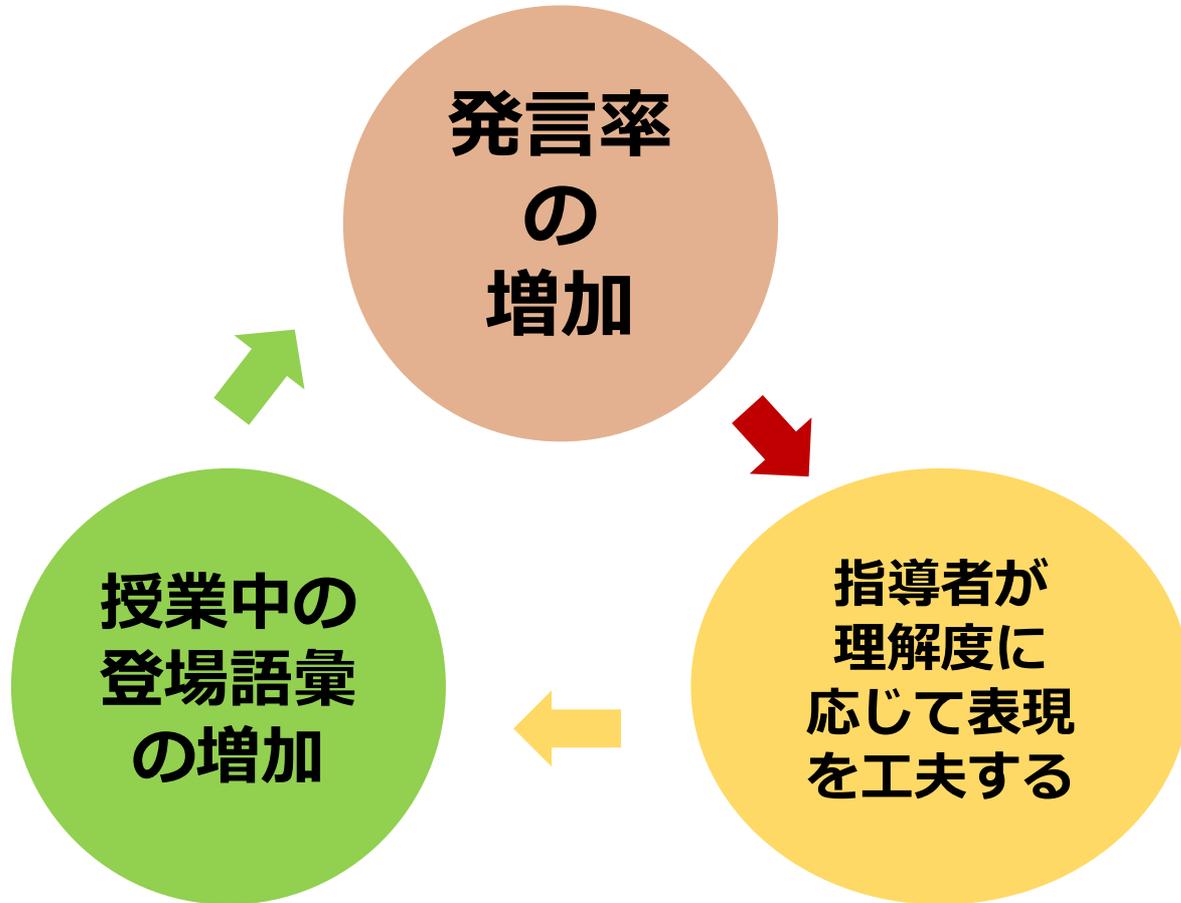
使用教材：Hi, friends!

事前準備：外国語活動専科の教員とALTによる事前授業  
生徒同士のグループワークでの質問内容

授業内容：Skypeを使用し、ネイティブスピーカーと  
1対1で会話をしながら学習する



# 3つの通常授業との違い



# ICT英語教育の課題

指摘されたこと	大阪で予想されること
実施した小学校は少人数教室	大人数教室の場合は、 機器の説明や会話の補助などに 困難が予想される
帰国子女の教員が在籍していた プログラムに専念しても、 他の教員が授業を交替した	人材不足が指摘される学校では 実施が困難
コンテンツ不足	市の単位だとノウハウが不足

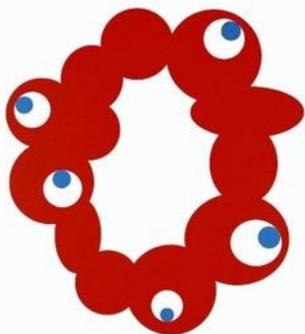
# 市がハードを整備し 府がソフトを整備する

各市町村が財政状況や教育目的に即した端末を導入し、  
大阪府が運用ノウハウやテキストを配布する



# グローバル人材の育成

4年×3段階のステップ(計12年)



万博

2022 - 2025年度



姉妹都市

2026 - 2029年度



第二言語

2030 - 2033年度

段階終了後も継続して実施する

# 2025年大阪万博に向けて

## 小中高生のボランティアチームを結成

- ・大阪万博内でのガイドツアー
- ・大阪の主要駅で大阪万博への行き案内
- ・大阪万博、大阪の魅力発信

必要な力は、、、

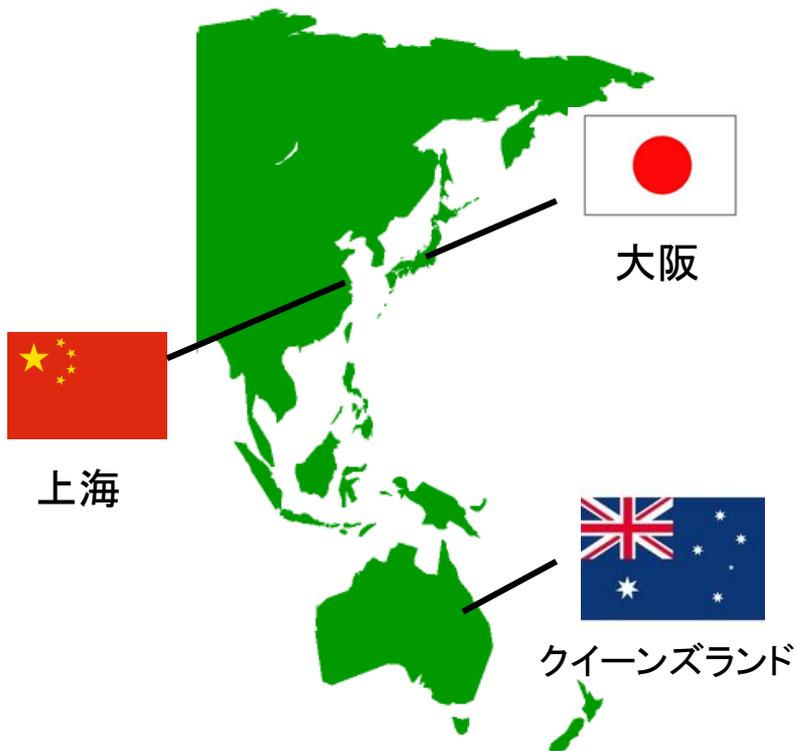


- ・大阪万博の概要把握能力
  - ・道案内するための土地勘
  - ・魅力開拓、発信能力
- 大阪を愛する力が共通



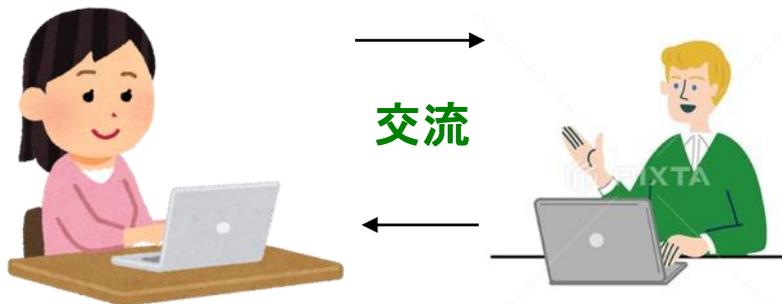
# 姉妹都市との交流

授業毎に目標設定し取り組む予定  
残り5分はフリーークの時間を設ける



世界と締結している姉妹都市の中でも  
時差の少ない2つの都市とパートナーを組む

言葉の通じない相手にも  
動じず柔軟に対応できる人材を育成



# 第二言語で世界とつながる！

高校生になると第二外国語の選択ができる  
サンパウロ(ブラジル/ポルトガル語)、  
ミラノ(イタリア)、  
ヴァルドワーズ(フランス)、  
ハンブルグ(ドイツ)等、  
興味のある言語を学べる！！



修学旅行や遠足で実際に会い、  
互いの国を一緒に巡り交流する

# 未来は、 、 、

インバウンドに対応

観光で選ばれる  
街へ

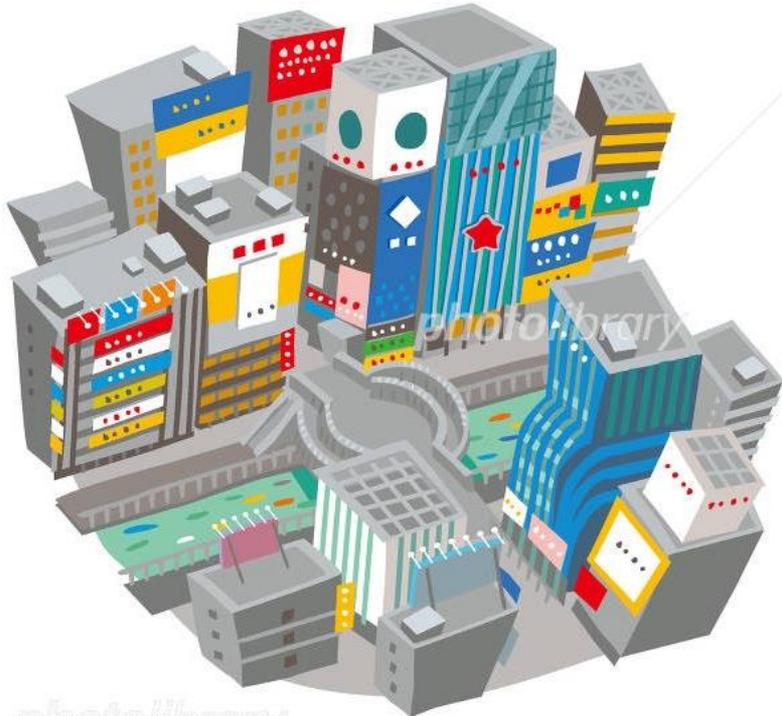
ビジネス

居住の選択肢の1つ

大阪は  
日本の副首都としての  
機能を十分に  
発揮できると期待



# 世界に誇れる グローバル首都 OSAKAを目指す



追手門学院大学

中田 真誠、平川 咲弥、加島 朱音